

復讐するは我にあり

ふくしゅう

カラー作品 ■ JPN・VHS・LD

監督 今村昌平
 原作 佐木隆三 (講談社刊)
 製作 井上和男

緒形 拳

小川 真由美

倍賞 美津子

白川 和子

根岸 とし江

絵沢 萌子

小野 進也

火野 正平

河原崎 長一郎

フランキー 堺

北村 和夫

殿山 泰司

垂水 悟郎

金内 喜久夫

加藤 昭一

小沢 嘉

ミヤコ 蝶々

清川 虹子

三国 連太郎

脚本 馬場 眞左衛門
 撮影 池田 眞一
 音楽 浦岡 敬一郎
 編集 松竹 今村プロ



倍賞美津子 根岸とし江 白川 和子 絵沢 萌子 小川真由美

犯罪の前後左右に女あり！
 ぱっと咲いたらおさらばよ
 本音まる出しに生きた男！



復讐するは我にあり

■かいせつ

「復讐するは我にあり」は、主人公・榎津巖の犯行の軌跡と人間像を描いた昭和五十年下期の直木賞受賞作の映画化である。

原作の発表後、その内容にほれ込んだ監督たちの間で映画化を熱望する声が高く、だが映画にするのか……。さんざん、ファンの気をもませたが、いよいよ今村昌平監督の手で実現した。

「にあんちゃん」(59)、「豚と軍艦」(61)、「につぼん昆虫記」(63)、「赤い殺意」(64)などエネルギーにリアリズムを追求した劇映画の大作に加え、「人間蒸発」(67)、「につぼん戦後史」(70)など、ドキュメンタリーでも斬新な手法で人間の心を極力裸にしてみせた今村昌平は、「犯罪のすべてを画くことで、現代および現代人を捉える」と意欲的にこの作品に取り組んできた。

映画は、九州、浜松、東京で五人を殺した上、史上最大といわれる重要指名手配の公開捜査をかくぐって、時には大学教授、時には弁護士と称し、全国を股に手品みたいな詐欺と女性関係を繰り返して、驚くべき犯罪の才能をみせた「犯罪上」の生いたちから死刑執行までを辿る。そしてクリスチャンの家に育ったこの男の犯罪心理と、その肉親の痛みに焦点を合せ、親子・夫婦関係を浮き彫りにしようという大胆な試みである。

スタッフ

監督 今村昌平
原作 佐々木隆三
脚本 井上靖
製作 馬場和男
撮影 池田晋一
音楽 久保田義一

キャスト

榎津 巖 緒形拳
三國連太郎
加津子 三宅邦子
浅野 幸子 小川真由美
馬場 大八 殿山泰司
吉武 順一郎 重水悟郎
吉里 幸子 根岸とし江
吉野 幸子 菅井きん
河井 幸子 白川和子
桑田 幸子 浜田寅彦
市川 幸子 フランキー堺
口 幸子 園田裕久
日 幸子 辻田裕久
池田 幸子 北村和夫
新井 幸子 小沢昭一
保 幸子 阿部寿美子
浜松 幸子 梅津栄
副島 幸子 河原崎長一郎
裁判 幸子 石堂淑郎
「浅野」の客 佐木隆三
国鉄駅役 安田 金内喜久夫
河島 幸子 加藤嘉
主計 幸子 小野進也

■ものがたり

日豊本線築橋駅近くで二つの惨殺死体が発見された。大根畑の柴田種次郎(殿山)、採石場の馬場大八(垂水)。専売公社のタバコ集金に回っていた二人から現金四十一万円余りが奪われていた。

容疑者に浮んだのは、かつてタバコ配給に従事した運転手榎津巖(緒形)。そのアパートは空っぽだったが、榎津は駅裏のバー「麻里」のママ千代子(絵沢)を強姦、アパートに連れ込んで関係を強要し続けるなど、捜査員の聞き込みも至って悪い。

別府市・鉄輪で旅館を営む榎津の実家を訪れると、老父鎮雄(三国)、病身の母かよ(蝶々)、妻加津子(倍賞)の一家は泣きながら捜査に協力を誓うのだった。

鎮雄によると、一家は熱心なカトリック信者。戦争中、網元をしていた鎮雄が軍人に殴られ、無理矢理、舟を軍に供出させられた屈辱の現場を目撃してから、巖は神と父への信仰を失った。以来、預けられた神学校で盗みを働いて少年刑務所へ送られ、その後も、犯罪、服役の繰り返しで、その間、惚れて加津子と結婚した。

榎津は出所すると、留守中の妻と父の仲を疑う。たった一度、加津子とあやまちのあった駅助役安田(金内)を強迫する。あぐく、父に手斧を振り上げるなど、一家の地獄は果しなく続いた。

榎津が浜松へ現れた。貸席「あさの」に腰をすえ、京都大学教授と称し、ステッキガール(根岸)を抱き、静岡大学に出没。警察をあざ笑うような行為を重ねた。

榎津の行動範囲は広い。浜松から千葉に飛び、裁判所、弁護士会館を舞台に、弁護士を

詐称して、老婆から息子の保釈金をだまし取り、行きずりに知りあつた河島老弁護士(加藤)を、池袋のアパートで殺し金品を奪った。

この頃になると警察史上、最大といわれる捜査網が張りめぐらされ、ボスター、ニュース映画などに榎津の指名手配写真が告知されたが、不敵な榎津は「あさの」の女あるじハル(小川)を池袋に呼びだし関係を持つなど、警察もないような振る舞いだ。浜松へ舞い戻った榎津を殺人犯であることをハルと母親ひさ乃(清川)が知る時が来た。

妾をしながら、若い男(火野)を喰え込み、榎津に抱かれるハル。そして元殺人犯で競艇狂いのひさ乃。ひさ乃は競艇でもうけた金を与えて榎津を逃がそうとし、ハルは「あなたの子を生みたいに」と榎津に溺れた。追いつめられた者の奇妙な心理だったが、その母娘を榎津は絞め殺し、「あさの」の家財を売り飛ばし、電話まで入質して逃亡資金を貯えた。

その後も、犯罪の天才ともいうべきこの冷血大胆な男は、詐欺と女の全国行脚七十八日の末、九州であつてなく捕まり絞首台に消えることになった。

残された一家にも重い葛藤があつた。

息子の悪業を病んで死ぬ母かよは「私も女じゃけん、お父さんを加津子に渡しとうはなか」といひ続けた。父鎮雄は、かつて、お父さんのために復讐するといつて家へ戻り、家を守ってきた嫁が心底かわいく、信仰とのほさまに悩みぬく。そんな義父を加津子は無性に好きだった。

榎津の処刑後、別府湾を望む丘に、骨壺から、榎津の骨片を空に向けて投げる。鎮雄と加津子の姿がみられた。

●4月21日(土)→27日(金)特別ロードショー

絶賛前売中! ¥1000

(当日・一般1300の処)

有楽町・朝日新聞社うら

丸の内ピカデリー

☎(201)2881

紀伊國屋ビルうら

新宿ピカデリー

☎(352)1771

上映時間 10:40 1:25 4:10 6:55

■料金一般¥1300・大学¥1200・高中¥1100・小人¥800

■指定席¥2000(電話予約は劇場へ)

★両館とも 21日(土)オールナイト